

高橋 綾子, 高永 圭子, 魚田 勝臣

専修大学 経営学部 情報管理学科

1. はじめに

われわれは目的指向の情報リテラシ教育を目指している。ここでは、単にアプリケーションソフトを教えるのではなく、卒業研究や論文作成など日常の情報活動を達成目標とし、それに至るまでの一連の流れの中で演習を構成する。このように現実の場面を素材にすることで学生の理解を深めさせかつ応用力をつけさせる。本論文ではこうした情報リテラシ演習の組み立てについて論じる。

コンピュータやコミュニケーションシステムは情報活動を効果的かつ効率的に行う手段（シーズ）であり、目的（ニーズ）は日常の情報活動の達成であるという姿勢にそって演習を展開する。

2. 情報リテラシにおける演習の位置付け

2.1 情報リテラシのシラバス

情報リテラシ科目は次のように展開している。

- (1) 情報リテラシの重要性と情報システム
- (2) 情報倫理
- (3) 情報ツールの基礎
- (4) 活動計画・行動予定と記録
- (5) 情報リテラシと問題解決
- (6) 情報の収集
- (7) 情報の分析
- (8) 情報の発信
- (9) プレゼンテーション
- (10) ディベート

このうち (3) (6) (10) は各 2 回分を当てて

いる。この科目は目的指向を基本方針とし、個人の情報活動における情報の収集、分析、発表などの能力を身につけさせることを目的とした。

2.2 演習の位置付け

演習では、日常の情報活動を素材としてシラバスにそって理論の部分を実践する。その演習の素材についても日常情報活動に求める。例えば、シラバスの

(4) では手帳やメモ、PDAの利用の仕方、

(6) では図書館での文献調査や検索の演習、

(10) ではプレゼンテーションツールの他に模造紙での発表、

も扱う。パソコンについては自習できる簡単なツールであり、基本を教え、自習によって自己増殖し知識を増やすことを基本的な考えとしている。

3. 演習の展開

各回とも予習—実習—課題のサイクルで演習を展開する。このサイクルで学ぶことで、知識を自らのものとし、自発性を育てる。また、素材には、一貫性・連続性を持った身近な問題を取り上げ、興味をかき立てる。

3.1 予習

予習は実習の準備と位置付ける。内容的には、核の部分すなわちそのテーマにおける必要最小限の知識としている。懇切丁寧な資料を準備し、学生にやる気と達成感を味あわせる。

3.2 実習

実習は応用の部分である。予習の知識を前提とし、説明を受けなければわかりにくい概念や重要な機能なのに普段あまり気づかない事柄を教える。

3.3 課題

課題は予習・実習の成果を組み合わせ、駆使して解決する問題である。単純で時間のかかるものも課題とする。さらに自己の知識を膨らませ、他場面でも活用できる問題としている。

4. 演習の素材

学生を例にとると、日常の情報活動には、行動計画や授業、ゼミナールやサークル活動、就職活動などが含まれる。情報リテラシの究極の達成目標を卒業研究におく。卒業研究は調査、下書き、目次を考える、論文執筆、レビュー、発表という順序で行われる。論文は構造的に考え、組み立てることを学ぶのに一番ふさわしい。卒業研究を実施するという情報活動には、情報リテラシのすべてのエキスが集約されているので演習の素材にした。具体的には情報リテラシのシラバスと卒業研究、それにそった演習を組み立て、表1のように展開する。演習の項目例は特徴のある部分だけ載せた。このように体系付けて学習させることにより、ただ単にアプリケーションの使い方やマニュアルを習得するのではなく、何をするためにどんな情報活動があるのかということを構造的に理解し、自然と情報ツールも使いこなせると考える。

5. おわりに

日常の情報活動にそった情報リテラシ演習の構成について述べた。この科目は半期2単位であるが、内容は多岐にわたり講義・演習だけでは不十分である。最終的には卒業研究やゼミナールでの指導に委ねる必要がある。

われわれは現在ここに述べた考え方に基づいてテキストの執筆をしている。また実際に教師が教える時に必要となる教材も合わせて作成している。

成果に関しては、昨年度から実施している専修大学経営学部の「情報リテラシ」について改めて報告したい。

参考文献

- 1) 魚田, 大曾根, 松永, 宮西: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—総論—, IPSJ 第60回全国大会 3L-4, 2000.3.
- 2) 高橋 綾子 魚田 勝臣: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「基礎」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-6, 2000.3.
- 3) 魚田, 大曾根, 松永, 宮西, 荻原: 情報リテラシ教育の発想と展開, 情報科学研究, No.20, pp. 1-8 (2000).
- 4) 魚田 勝臣: 情報リテラシにおける導入教育の展開, 情報科学研究, No. 20, pp. 9-16 (2000).

表1 情報リテラシ・卒業研究・演習の展開の相互関連

シラバス	卒業研究	演習の項目例
1 情報リテラシの重要性と情報システム		
2 情報倫理	著作権	・情報センタへの申請 ・パスワードの取得・管理
3 情報ツールの基礎	個別のコミュニケーション	・メモや手帳, 携帯電話やPHS, FAXなどの活用
4 活動計画・行動予定と記録	計画書(工程表など)の作成	・手帳によるスケジュール管理 ・計画書の作成
5 情報リテラシと問題解決	テーマを決める調査	・図書館での文献調査やOPACの使い方 ・インターネットによる情報収集と整理
6 情報の収集		
7 情報の分析	資料の整理・分析 図・表・統計などを作成	・表計算とグラフ ・時系列データによるグラフの例 ・データの分析
8 情報の発信	論文の執筆 先生とのレビュー	・論文, ビジネス文書, 手紙など構造的な文書の書き方 ・ワープロの使い方
9 プレゼンテーション	発表会・審査会	・効果的な口頭発表の仕方 ・箇条書きの手法 ・ビジュアルな表現の仕方
10 ディベート	発表会・審査会(ディフェンス)	・ディベートの見学・実践